

高齢者長期ケア施設における 看護師のコンピテンシーの構造の解明

～坂の街・長崎の地理的特徴を踏まえた分析～

研究年度 令和 1 年度

研究期間 令和 1 年度～令和 3 年度

研究代表者名 山口多恵

研究協力者名 住谷ゆかり

I. はじめに

長崎県の高齢化率は 30.7%に達しており、全国平均の 27.2%を上回っている。国の方針として、高齢者が住み慣れた地域で暮らしていける社会の構築を推進している中、長崎県の坂や階段が多いという地理的特徴は少なからず、その実現の障壁となっている現状がある。在宅復帰をミッションとする長期ケア施設に従事する看護師は、患者の退院後の生活を身体的側面のみならず包括的視点で支援する力量形成が求められる。長期ケア施設に位置づく回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟は、診療報酬により在宅復帰率が定められており、さらに回復期リハビリテーション病棟においてはケアの質を担保すべく **Functional Independence Measure** の利得向上など明確なアウトカム指標が定められている。これは全国一律に設定されており、地理的特徴は考慮されていない。このような条件の中、階段や坂の多い長崎県の長期ケア施設に従事する看護師は、既定の在宅復帰率を維持するために様々な工夫をし、多職種連携スキルを実践の中で培っていることが推測される。

II. 目的

本研究の目的は、長崎県の高齢者長期ケア施設における看護師のコンピテンシーの構造を明らかにすることである。コンピテンシーとは、ある職種や役割において優れた結果をもたらす行動特性のことである。長崎の高齢者長期ケア施設における看護師のコンピテンシーの構造を明らかにすることで、長崎の地域包括ケアシステムの拡充において重要な位置づけを担う長期ケア施設に従事する看護師の人材育成に資する知見となり得る。本研究結果は、日本の地域包括ケアシステムの担い手として社会から期待を寄せられている看護

学生への教育内容への反映が期待できる。

Ⅲ. 方法

1. 研究協力施設の選定およびデータ収集 2019 年 7 月～12 月

高齢者長期ケア施設の一つとして位置づく、回復期リハビリテーション病棟および地域包括ケア病棟の 20 施設 27 病棟の看護部長へ協力を書面にて依頼した。同意が得られた施設の看護部長から高齢者リハビリテーション看護のコンピテンシーを備えていると判断する看護師の紹介を受けた。1 病棟につき 3 名の看護師へ半構造化自記式質問紙（以下、質問紙）の配布を依頼するため 81 名分送付した。なお、質問紙の記載内容をさらに詳しく聴取する必要があると研究者が判断した場合にインタビューへ応じる意思の確認も併せて行った。質問紙は個別の返信用封筒にて回収した。

2. 質問紙の内容

質問紙の内容は、属性、在宅復帰を支援するために重要視していることについて、長崎県の地理的特徴が在宅復帰を難しくした事例の経験と解決するために工夫した点について、インタビューへの協力意思の有無、専門職連携実践能力評価尺度、EBP（E evidenced based practice）評価尺度で構成した。

専門職連携実践能力評価尺度は、①プロフェッショナルとしての態度・信念②チーム運営のスキル③チームの目標達成のための行動④患者を尊重した治療・ケアの提供⑤チームの凝集性を高める態度⑥専門職としての役割遂行の 6 つの下位尺度で構成されている。

3. 分析方法

属性および評価尺度については記述統計を算出した。専門職連携実践能力評価尺度得点は、全国データと本研究データを t 検定にて比較した。自由記載内容については、内容分析及び客観性を担保する目的で質的分析ソフト N-vivo を用いて分析する。N-vivo による分析は今後進める予定である。

4. 倫理的配慮

長崎県立大学一般倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号 388）。質問紙に同意チェック欄を設け、チェックの記載がある質問紙の返信をもって協力に同意したものとした。なお、尺度の使用については、開発者の許可を得た。

Ⅲ. 研究成果

1. 回収率

回収数は 35 件、回収率 43.2%であった。

2. 対象者の属性の特徴

対象者の平均年齢は、47.1 歳 (*SD*7.0)、看護師経験年数は 22.5 年 (*SD* 8.1)、当該病棟経験年数は 6.3 (*SD* 4.3) であった。性別は女性 33 名 (94.3%)、男性 2 名 (5.7%) であった。

3. 対象者の専門職連携実践能力の特徴

専門職連携実践能力評価尺度の合計平均得点は 113.6 (*SD*13.6)、①プロフェッショナルとしての態度・信念の得点は 23.0 (*SD*3.3) ②チーム運営のスキルの得点は 18.9 (*SD* 2.8) ③チームの目標達成のための行動の得点は 18.9 (*SD* 3.2) ④患者を尊重した治療・ケアの提供の得点は 20.8 (*SD* 2.1) ⑤チームの凝集性を高める態度の得点は 16.0 (*SD* 2.1) ⑥専門職としての役割遂行の得点は 16.0 (*SD* 2.1) であった。

全国の長期ケア施設の看護師 1,099 名を対象とした先行研究 (山口, 2019) の専門職連携実践能力評価尺度データと比較して得点に有意差は無かった。

IV. 考察

全国の長期ケア施設の看護師 1,099 名を対象とした先行研究 (山口, 2019) における専門職連携実践能力評価尺度の得点は、合計平均得点は 112.1 (*SD*13.8)、①プロフェッショナルとしての態度・信念の得点は 22.3 (*SD*3.3) ②チーム運営のスキルの得点は 18.8 (*SD* 2.8) ③チームの目標達成のための行動の得点は 18.6 (*SD* 2.9) ④患者を尊重した治療・ケアの提供の得点は 20.6 (*SD* 2.3) ⑤チームの凝集性を高める態度の得点は 16.2 (*SD* 2.4) ⑥専門職としての役割遂行の得点は 15.6 (*SD* 2.3) であった。本研究の対象者 35 名の平均値との比較においても有意差がなかったことより本研究対象者は、平均的な専門職連携実践能力を獲得していることが推察された。今後の継続課題は、自由記載内容について内容分析の結果と Nvivo を用いた分析結果の統合を通して看護師のコンピテンシーを構成する要素の特定に着手することである。

追伸

今年度は Nvivo の研修会とセンター試験の説明会の日程が重なったために Nvivo 研修会に参加できず分析が遅延している状況です。